

山形市（東北ブロック）

【計画期間 平成26年11月～令和2年10月】

- ・江戸期：城下町としてよりも商業都市として発展・繁栄した。
- ・明治期：藩が廃され県に改まると、山形には統一山形県の県庁が置かれた。
明治22年に市制を施行。
- ・戦後期：昭和29年に近接12か村、昭和31年には6か村を合併し現在の規模になっている。
- ・現在：平成19年に「山形市第7次総合計画」がスタートし、あたらしいまちづくりを進めている。

【前計画の概要】

○山形の地域資源である堰と蔵を活かした商業施設や共同住宅の整備を行うとともに、地域住民がまちなかで過ごせる空間整備等により、人が暮らし、集まり、交流している中心市街地を形成する。

（計画期間：平成20年11月～26年10月）

【中心市街地の変化】

○街なか観光客の入込数は、前計画で3つの新名所として整備・運営した「山形まるごと館 紅の蔵」、「山形まなび館」、「水の町屋 七日町御殿堰」については多くの入込数を計測し、大きな成果を収めている。

○歩行者通行量は減少傾向に歯止めがかかり、増加傾向へ転じているが、街なか観光客入込数から見ると歩行者通行量への波及効果が薄い。

【目指す中心市街地像】

○歴史や文化を活かした、山形の魅力あふれるまち。

■前計画の目標

目標	指標	基準値	目標値(H26)	現況値
賑い拠点の創出	歩行者通行量 (休日、12地点)	29,682人 (H19)	34,000人 (H26)	28,398人 (H25)
街なか居住の推進	中心市街地の 居住人口	8,684人 (H19)	9,100人 (H26)	8,624人 (H25)
街なか観光交流人口の増加	街なか観光客の 入込数	249,869人 (H19)	400,000人 (H26)	643,181人 (H25)

■新計画の目標

目標	指標	基準値	目標値(R2)
賑い拠点の創出	歩行者・自転車通行量 (休日)	32,853人 (H25)	36,000人
商業の魅力向上	空き店舗率	15.5% (H25)	12.1%
街なか観光交流人口の増加	街なか観光客の 入込数	744,374人 (H25)	950,000人

「街なか回遊」・「街なか居住」・「イベント」
による賑わいの創出

特色ある商業の振興

山形の歴史・文化資源を活かした
街なか観光の推進

【主要事業】

- ・香澄町一丁目2街区市街地再開発事業
- ・中心市街地観光レンタサイクル事業
- ・街なか情報発信事業

など

【主要事業】

- ・七日町拠点整備事業(御殿堰南)
- ・街なか出店・居住推進事業
- ・まちなか再生支援事業

など

【主要事業】

- ・旅籠町にぎわい拠点整備事業
- ・羽州街道にぎわい横丁整備事業
- ・プレミアムショッピングタウン256整備事業

など

山形市中心市街地活性化基本計画の事業概要

「街なか回遊」・「街なか居住」・「イベント」による賑わいの創出

①中心市街地観光レンタサイクル事業

観光者向けにレンタサイクルを事業を行うことで、観光客や中心市街地に来街した消費者の利便性及び回遊性の向上を図る。



②香澄町一丁目2街区市街地再開発事業

店舗を併設した共同住宅・ホテルを整備し、山形駅前のペDESTリアンデッキと連結することで、「賑わい拠点の創出」及び「商業の魅力向上」に寄与するもの。

特色ある商業の振興

③七日町拠点整備事業（御殿堰南）

前計画で整備した「御殿堰」や「水の町屋七日町御殿堰」に調和した商業施設を整備し商業の魅力向上に寄与するもの。



④プレミアムショッピングタウン256整備事業

中心市街地に不足している食品スーパーや飲食テナントを備えた商業施設を整備し魅力ある商業空間を創出する。



山形の歴史・文化資源を活かした街なか観光の推進

⑤旅籠町にぎわい拠点整備事業

「旧木村邸」を、伝統工芸や伝統芸能といった山形市の文化を紹介する機能を持った第4の名所として市街地観光拠点を整備するもの。



⑥羽州街道にぎわい横丁整備事業

現在、漬物工場として使用されている建物をフードコート、隣接する土蔵を山形の農畜産品の直売所として整備し街なか交流人口の増加を図る。

